図1–2．愛媛県初記録のミユキシジミガムシ（図1）と雄交尾器（図2）．

図3．本種の生息環境（久万高原町笠方）．

1996a，1996b）．筆者らは，愛媛県初記録となる本種を確認したのでここに報告する．本種は分布域が重なる同属のシジミガムシ *Laccobius*（*Laccobius*）*bedeli* Sharp，1884 とよく似ているため，同定には雄交尾器を用いた（図 2）．

4exs.，愛媛県上浮穴郡久万高原町笠方，22. VII. 2012，筆者ら採集・保管．

19exs.，愛媛県上浮穴郡久万高原町直瀬，20. VIII. 2012，武智採集・保管．

笠方（標高約 720 m）の産地では，放棄水田内に形成された水溜まりから確認された（図 3）．水位は浅いものの，隣接している水路から水が供給されていた．直瀬（標高約 630 m）の産地は，段々になった数面の放棄水田にできた複数の水溜まりで多くの個体が確認された．どちらの採集地においてもドジョウが生息していたことから，本種の生息可能な水位は安定しているものと思われた．

シジミガムシの記録については，本種の誤同定である島根県の事例があり，標本に基づく再検討の必要性が指摘されている（林，2009）．このため，実際に愛媛大学ミュージアム所蔵のシジミガムシとされている標本を再検討した結果，全てコモンシジミガムシ *Laccobius*（*Microlaccobius*）*oscillans* Sharp，1884 の誤同定であることが確認された．愛媛県下におけるシジミガムシ属の記録についても同属他種の誤同定である可能性があり，記録を扱う際には注意を要する．

末筆ではあるが，標本の作成に御協力いただいた愛媛大学農学部環境昆虫学研究室の小川遼，菅谷和希両氏，本種の四国内の記録について御教授いただき，草稿を御校閲いただいた愛媛大学ミュージアムの吉富博之博士に厚く御礼を申し上げる．

引用文献

林　成多，2009．島根県の水生ガムシ科．ホシザキグリーン財団研究報告，（12）：87–121.

上手雄貴, 2007．日本産シジミガムシ属．昆虫と自然, 42（2）：12–16.

環境省自然環境局野生生物課, 2012．報道発表資料 第 4 次レッドリストの公表について（お知らせ）．（2012 年 11 月 3 日参照）http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=15619

松井英司，1996a．四国で採集した水生甲虫類（1）．北九州の昆蟲，43（1）：33–40.

松井英司，1996b．四国で採集した水生甲虫類（2）．北九州の昆蟲，43（2）：81–88.

（武智礼央　790-0924　松山市南久米町 234 番地サンディッシュ久米 307 号）
（渡部晃平　700-8617　岡山市北区津島京町 3 丁目 1 番 21 号　株式会社エイト日本技術開発）

【短報】西表島からタイワンカタハリナガツツハムシを記録

タイワンカタハリナガツツハムシ（新称）*Aetheomorpha taiwana* Chûjô, 1952 は台湾では低山地から山地にかけて生息するが，採集例の少ないハムシである（Chûjô, 1952；木元・滝沢，1997）．2012 年 5 月に西表島で林縁のスィーピングで 2 頭を採集したが，食草の確認はできなかった．

図1．日本産タイワンカタハリナガツツハムシ．

図 1 に示すように，背面は黄色で，前胸の中央部に大きな黒紋，上翅の基部に黒紋，中央部と後方に

2 本の黒帯を装う点で，日本産の他のナガツツハムシ類から明瞭に区別される．従来，台湾および中国から記録されているもので，琉球列島からは初めての記録となる．

本属は日本から初めて記録されるもので，体型はやや太目で短く，上翅の側片は基部が顕著に拡がり，尾節板が露出していることが特徴である．

2 exs., 沖縄県竹富町西表島船浮，3. V. 2012, 大木裕採集（標本は大木・滝沢保管）．

引用文献

Chûjô, M., 1952. A taoxonomic study on the Chrysomelidae from Formosa, part 5, Clytrinae. Techn. Bull. Kagawa Agr. Coll., 4 (1): 32–49.

木元新作・滝沢春雄，1997．台湾産ハムシ類　幼虫・成虫分類図説．581pp., 東海大学出版会.

（大木　裕　225-0015　横浜市青葉区荏田北 2-17-13）

（滝沢春雄　349-0122　蓮田市上 2-7-16）

【短報】千葉県におけるクロサワドロムシの記録

クロサワドロムシ *Neoriohelmis kurosawai* Nomura, 1958 は，河川上流域を中心に生息する種で（吉富ほか，1999），南関東では埼玉・神奈川両県に記録があるが，神奈川においては 1 例と少ない（新井，2007；守屋，2004）．北関東・南東北・新潟県などでは比較的普通とのことである．最近，千葉県産甲虫の新記録種をまとめた報文が発表された（鈴木・斉藤，2011）．そこで，最近の全国誌等も含めた既報を調べたところ，本種は千葉県未記録の可能性が高いことがわかった．古い記録になるが，筆者は，既知産地から飛び離れた房総丘陵の標本を所持しているので，報告しておく．

図1．千葉県産クロサワドロムシ．

1ex., 千葉県富津市高宕山，24. V. 1992. 雛倉正人採集．

沢の源流部をつめて歩いていたとき，足元で偶然見出したものと記憶している．外観がやや細身の個体である（図 1）．

末筆ながら，本種であることを確認いただいた愛媛大学の吉富博之博士に厚くお礼を申し上げる．

引用文献

新井浩二，2007．埼玉県のヒメドロムシ類．寄せ蛾記 , (125): 1–21.

守屋博文，2004．県内産ヒメドロムシの追加と削除．神奈川虫報 , (146): 50.

鈴木　勝・斉藤明子，2011．千葉県動物誌 , 千葉県産動物総目録に掲載されていない甲虫 422 種．房総の昆虫 , (48): 1–26.

千葉県史料研究財団，2003．コウチュウ目 . 千葉県産動物総目録 : 207–258.

山崎秀雄，1999．千葉県の鞘翅目，pp. 634–718. 千葉県動物誌．1247 pp., 文一総合出版 , 東京.

吉富博之・白金晶子・疋田直之，1999．矢作川水系のヒメドロムシ．矢作川研究 , (3): 95–116.

（雛倉 正人　215-0021　川崎市麻生区上麻生 6-1-26 柿生グリーンハイツ 101）

【短報】埼玉県嵐山町で採集されたクリイロヒゲハナノミの北限記録

クリイロヒゲハナノミ *Macrotomoxia castanea* Pic, 1922 はハナノミ科ハナノミ族に属する甲虫である．体長は 8 ～ 16.5 mm と大型で，複眼の個眼が大きく粗いことや，採集例のほとんどが灯火であることから，夜間活動性の種と考えられている（高桑，1998）．

本種の分布は広く，南はマレーシア（マレー半島）やインドネシアのボルネオ島から，北は日本の本州まで記録されているが，九州以北での採集例は少なく，東洋区要素の昆虫と考えられる．これまでの分布北限記録は埼玉県入間市で，益本仁雄氏により大妻女子大学構内の白壁に静止している個体が得られている（高桑，2006）．

筆者の一人である鶴は，埼玉県嵐山町の菅谷館跡の林内において，ライトトラップによる採集調査を行ない本種を採集したので報告する．採集に使用したのは野村（2010）によって紹介されている“中瀬式ライトトラップ”で，電源をアルカリ乾電池としたなど若干の仕様の違いはあるが，他の部分

図1．クリイロヒゲハナノミ♀（埼玉県嵐山町産）．